

日本漢方協会通信

26年 1月

日本の誇れる漢方を推進する議員連盟

医療法人社団 方伎会 石川クリニックHPより

平成25年5月23日

日本の誇れる漢方を推進する議員連盟は100名を数えるそうです。役員には、顧問として安倍晋三首相を筆頭に、麻生太郎、野田毅、川崎二郎、丹羽雄哉、の先生方がなられており、会長は鴨下一郎、副会長には衛藤晟一、川口順子、佐藤勉、幹事長には田村憲久、幹事長代理には藤井基之、事務局長には加藤勝信、事務局長代行には若宮健嗣、事務局次長には三原じゅん子、幹事には金子泰之、鶴保庸介、菅原一秀、福島資麿、古川俊治、松本純、丸川珠代、宮沢洋一、武見敬三の先生方です。

伝統医学はその国の風土、文化、宗教などあらゆるものを含有しながら発展、進化し医療です。各国で在り方が異なるのはそのためです。標準化の問題はここに根ざします。

日本人が、日本人のために、日本人の手で作上げた最適な医療であると確信しております。

生薬の国際問題や、WHO,ISOの問題も含めて、日本の医療を守らなければなりません。

伝統医学を統括する国家機関のない国は日本だけです。中国も韓国も強力に国が後押しをしております。

私達が、この日本の誇れる漢方を推進する議員連盟に期待する所は大であります。優れた日本の医療をクール・ジャパンに入れ込んで頂き、国内の整備とともに、世界に発信し頂きたいと願っております。

日本漢方生薬製剤協会 薬事日報より

薬用植物の国内栽培が国主導で大きく動き出した。昨年8月、自民党内部に「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」が設置されたのを皮切りに、農林水産省と厚生労働省の意見交換会として、課長級会議がスタートした。今年8～9月には、生産農家と漢方薬メーカーをマッチングする「薬用作物の産地化に向けたブロック会議」を全国8カ所で実施し、地域振興を目指す産地側の参加者からの関心も高まっている。生薬原料の約8割を中国からの輸入に依存する中、医療と農業を結びつけた新たな産業化へのチャレンジに注目が集まっている。

●農家とメーカーつなぐブロック会議を開催

漢方薬の使用量は、使用経験医師が増えたことで、拡大を続けている一方、漢方薬の原料となる生薬については、大部分を中国からの輸入に依存している。日本漢方生薬製剤協会（日漢協）が2010年に行った調査によると、08年度の生薬の総使用量2万2733トンのうち、中国産が83%、日本産は12・2%の2447トンにとどまっていた。また、日本産の品目数は248品目中89品目の約36%と、安定確保にはほど遠い。

中国からの調達も、年々厳しくなっている。漢方薬原料に多く用いられる「甘草」や「麻黄」は輸出規制の対象となった。さらに、中国国内での需要拡大や人件費の上昇、天候不順による生産量減少などで生薬供給価格が高騰し、残留農薬の少ない良品質の生薬を求める声も強まってきた。国内での漢方薬需要の拡大と薬用植物をめぐる中国の動向から、生薬の栽培化が叫ばれるようになった。

国内では、漢方薬メーカーと農家が個別に契約を結んで、生薬栽培が行われている。最大手のツムラが、北海道、岩手県、群馬県、和歌山県、高知県、熊本県と全国6カ所で展開し、積極的に栽培地拡充に乗り出すほか、各地方自治体と協定を結び、甘草の栽培化にチャレンジする企業も登場している。

ただ、薬用植物に一般的な市場がなく、農家とメーカー間の接触が限定された結果、国内での流通が進んでこなかった。メーカーが別の地域で生産を拡大したい場合に、栽培をどこに依頼するかが分からなかったり、農家も薬用植物を生産したくても、収益に見合う需要度の高い生薬をどう選べばいいか、さらにその売り込み先が分からないといったミスマッチが見られた。そのため、個々の品目の需給状況も把握できなかった。

日漢協の要望に応える形で、国もようやく本腰を入れ始めた。昨年11月から厚労省医政局経済課と研究開発振興課、農水省生産局農産部地域作物課が情報交換会を実施。「生産者と実需者をマッチングさせる場」として、全国を8ブロックに分けて、8～9月に生産者と実需者が顔を合わせた説明会を開催した。

ブロック会議は、農水省と厚労省、日漢協の3者の主催により8月に北海道、関東、北陸、9月に近畿、中四国、九州・沖縄、東海、北陸で行われた。国内全域で生薬栽培に関する説明会を行うのは、初の試みだ。

省略

漢方薬をめぐるのは、中医学の標準化が国際標準化機構（ISO）の技術委員会で議論される「TC/249」や「薬価」など課題が山積しているが、国内での生薬栽培に弾みがつけば、国内での普及、海外への輸出といった展望が開けてくる。

今後、厚労省と農水省、地方自治体、漢方薬メーカー、農家の連携を確立させ、農家の積極的な参加を促し、各産地から成功事例を一つでも多く発信していくための環境整備が求められる。

省略

漢方製剤の薬価維持 薬事日報25-12-13

日本の誇れる漢方を推進する議員連盟が漢方製剤の薬価問題に要望書を提出したことが書かれています。新聞記事を見てください

日本漢方協会「第33回漢方学術大会」は 成功裏に終了しました

「第33回漢方学術大会」は12月15日慶應義塾大学薬学部芝共立
キャンパスに於いて開催されました。

お蔭さまで約190名の方々のご参加をいただき無事終了するこ
うできました。役員一同心より御礼申し上げます。



特別講演 I

中村 謙介 先生



特別講演 II

宮原 桂 先生



分科会発表 1

熊井 啓子様



分科会発表 2

鈴木基二郎様



分科会発表 3

庄子 昇様



分科会発表 4

緒方 勝行様



分科会発表 5

八木多佳子様



分科会発表 6

平林 正士様



一般発表 1

中嶋 睦子様



一般発表 2

高橋 学様



一般発表 3

細野美佐子様



一般発表 4

今井 淳様



一般発表 5

笠原 良二様



一般発表 6

白鳥 誠様



一般発表 7

大根谷章浩様



一般発表 8

庄司 良文様



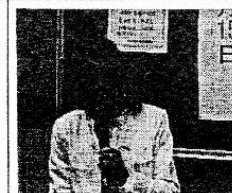
一言治験例発表 1

庄子 昇様



一言治験例発表 2

緒方 勝行様



一言治験例発表 3

佐藤喜和子様